

冬の生きもの

冬の北の丸公園では昆虫類やカメ、ヘビなど多くの生き物は冬眠に入り、姿を消します。活動を続ける鳥たちは、厳しい冬を乗り越えるために忙しく餌を探しています。



ヨシガモ カモ科ヨシガモ属



ヒドリガモ カモ科ヨシガモ属



オカヨシガモ カモ科ヨシガモ属



キンクロハジロ カモ科スズガモ属

カモの仲間

カモの仲間は冬を代表する鳥で、越冬のために公園内の池へ渡ってきます。オスは派手な色や模様をしており、オカヨシガモは胸に細かな鱗模様、キンクロハジロは白と黒が目立つ体、ヒドリガモは橙色の頭をしています。冬はカモにとって恋の季節で、オスは美しい姿をメスにアピールします。

北の丸公園では右表に示す多くの生物が生息しており、千代田区内でも生物の多様性が高い場所です。

冬の公園内には多くの生き物が冬眠に入り、アズマヒキガエル等は土の中で寒い冬を耐え忍んでいます。鳥たちは冬でも活動しており、池ではカモの仲間、林では小鳥たちが群れを作り、餌を探しています。また、暖かい日にはルリタテハ等のチョウが姿を見えます。早春になるとウメなど一部の植物が一足早く花を咲かせ、虫たちが集まってくる。

項目	種数	希少種
植物	719種	17種
鳥類	51種	22種
水生生物	49種	14種
両生類・爬虫類	9種	7種
陸産貝類	30種	2種
昆虫類	957種	17種

早春の花

早春になるとウメ等の花が目を見ますが、足元に野草の花も見ることができます。一部は、都区部で姿を消しつつある植物もあり、珍しい花も見られます。木々の花だけでなく、足元の花にも目を向けて観察してみてください。



ニリンソウ
キンボウゲ科イチリンソウ属



ムラサキケマン
ケシ科ケマン属



シロバナタンポポ
キク科タンポポ属



キブシ キブシ科キブシ属



ムラサキツバメ シンショウ科ムラサキツバメ属



ニホンミツバチ ミツバチ科ミツバチ属



カワセミ カワセミ科カワセミ属



メジロ メジロ科メジロ属



スイセン トガンバナ科スイセン属



ヒヨドリ ヒヨドリ科ヒヨドリ属



サンジュウ ミズキ科ミズキ属



アズマヒキガエル ヒキガエル科ヒキガエル属

冬

北の丸公園の生き物 ～環境別～

Winter Ver.

多くの生き物は、種ごとに異なる資源（食べ物、生息場所、活動時間など）を利用して生活しています。北の丸公園には樹林、草地、水辺など様々な環境があるため、公園全体では沢山の種類の生き物が確認されています。



ハシビロガモ



マガモ



ダイサギ

～水辺を利用する鳥たち～

水辺ではカモやサギの仲間がよく見られますが、それぞれ異なる生態を持っています。マガモは夜行性で、日中は池を休憩場所として利用しています。また、池は採餌場所としても利用されます。ハシビロガモは水面でプランクトンをこしとって食べ、サギは水辺を歩いて餌となる魚やエビ等を採ります。公園内の池では、このような水鳥たちの休憩する姿や採餌の様子を観察することができます。

●公園内は採集禁止です。
●園路から観察してください。



ジョウビタキ



ハクセキレイ



アトリ

～開けた環境の鳥類～

公園内には開けた草地環境があり、このような環境を好む鳥類が生息しています。ハクセキレイやツグミは越冬中の昆虫やクモを探して食べます。アトリは植物の種子を地面で探し、集団で行動しています。ジョウビタキは縄張りを主張するため、草地周辺の目立つ場所にとまって鳴いています。このように、冬の草地は多様な鳥が集まる重要な生息環境となっています。

水辺 WaterFront

草地 GrassLand

樹林 Grove

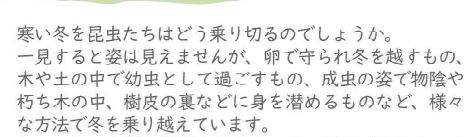


樹林



ウラギンシジミ

コガタスズメバチ (冬眠中)



チャバネアオカメムシ

ルリタテハ

～昆虫たちの冬越し～

寒い冬を昆虫たちはどう乗り切るのでしょうか。一見すると姿は見えませんが、卵で守られ冬を越すもの、木や土の中で幼虫として過ごすもの、成虫の姿で物陰や朽ち木の中、樹皮の裏などに身を潜めるものなど、様々な方法で冬を乗り越えています。ちょっとした落ち葉溜まりや人工物の隙間でさえも、小さな生き物にとっては冬を乗り越える大事な場所になっています。



周辺の情報は
こちらへ

環境省
Ministry of the Environment

発行：皇居外苑管理事務所 2024(令和6)年2月